

みどり

第33号

By Landscape Architecture

2021 新春号



第2回みどりの景観フォトコンテスト入賞作品
撮影者：檀原志織氏



一般社団法人 北海道造園緑化建設業協会
<http://www.hokuzoukyou.or.jp>



目次

巻頭挨拶

(一社)北海道造園緑化建設業協会 会長
北海道開発局長
北海道知事
札幌市長

嘉屋幸浩 1
倉内公嘉 2
鈴木直道 3
秋元克広 4

新型コロナウイルス支援基金寄付の報告	
新型コロナウイルスの影響による行事の中止・延期	5

令和2年 後期の事業の主なもの

研修等の事業

令和2年度 現場見学会	6
-------------	---

普及啓発等の事業

緑麗会 大通花壇造成	7
緑麗会 大通花壇の撤去作業	8

要望活動の推進	9
---------	---

令和2年 後期の事業の主なもの（関係団体）

日本造園学会 北海道支部大会	12
全国都市緑化北海道フェア打合せ会議について（日造協 北海道総支部）	12

令和2年建設事業関係功労者等国土交通大臣表彰 表彰式	14
----------------------------	----

コラム「大名と日本庭園」

(一社)北海道造園緑化建設業協会 専務理事 加藤建一	15
----------------------------	----

コラム「緑麗会の大通花壇について」

(一社)北海道造園緑化建設業協会 緑麗会 副幹事長 春木ことえ(株)横山造園	17
--	----

協会の動き 令和2年7月～12月	19
------------------	----

協会組織	20
------	----

会員名簿	21
------	----

編集後記	総務委員長 廣部修平 24
------	---------------------

新年ごあいさつ

一般社団法人 北海道造園緑化建設業協会 会長
嘉 屋 幸 浩



新年あけましておめでとうございます。

皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。この一年が皆様にとって、素晴らしい年になりますよう、心から祈念しております。また、平素より協会運営に格別のご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルスに世界中が一喜一憂するそんな年でした。「3密」「withコロナ」「クラスター」「ロックダウン」など聞きなれない言葉が飛び交いテレビのニュース速報では、毎日の感染者数が発表され不安な生活を送る日々だったと思います。一方、各企業や個人の感染予防の意識の高さにより新しい生活様式、新しい働き方なども定着しマスクの着用やアクリル板の設置など違和感が無くなって来ている状況に、人間の対応力の高さを考えると今後の新たな可能性が見えて来る気がします。とはいえ一向に終息が見えず、今も医療従事者の方々やいろいろな職種の方々の苦労が続いています。

さて、2020年の干支は、庚子（かのえね）といい「終わりと始まり」ひとつの波が去って、次の波をつくる年という位置付けの年だったそうです。後から思えば感慨深いものがあります。

2021年今年へと調べてみると辛丑（かのとうし）といい、牛は古くから酪農や農業で人間を助けてくれた大切な動物でしたので大変な農作業を最後まで手伝ってくれる働きぶりから、丑年は「我慢（耐える）」、「これから発展する前触れ（芽が出る）」というような年になるといわれています。2021年は皆でコロナを克服し、その中から数々のイノベーションが生まれ、希望に満ちた年になることを期待したいと思います。

我々造園業界においては引き続き人材不足や働き方改革への対応など多くの課題を抱えている中、担い手の確保、育成対策にしっかり対応していくことや、協会の活動では新しい事業の運営方法を模索しながら発展させていきたいと思っています。そして、今年は自粛の毎日で行動を制限されている多くの皆さんに我々みどりの業界としてみどりで心の癒しを与えられる事業が出来ればいいなと考えております。

本年も皆様方のご指導、ご協力、ご支援を宜しくお願いいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和3年 年頭挨拶

国土交通省 北海道開発局長
倉 内 公 嘉



明けましておめでとうございます。謹んで、新年のお喜びを申し上げます。

年頭にあたり、本年の主な取組について申し上げます。

1つ目は、北海道総合開発計画の着実な推進です。

昨年から第8期北海道総合開発計画の中間点検を行っています。年度内を目途とする中間点検最終報告に向けて作業を進めているところであり、その後は、中間点検の結果を踏まえ、計画のキャッチフレーズである「世界の北海道」を目指し、諸施策を着実に推進してまいります。

この計画では、「食」と「観光」を北海道の戦略的産業として、これを支える道内各地の「生産空間」の維持・発展を図ることとしています。このため、北海道開発局は、地域の定住環境の確保、国内外からの観光客等を含む人の移動や物流の効率化、農水産業の生産性の向上等の観点から、河川、道路、港湾・空港、農業・水産基盤など、基幹的な社会資本の整備と維持管理をしっかりと行ってまいります。また、食の輸出促進、シーニックバイウエイの推進など、ソフト施策も引き続き推進してまいります。

2つ目は、強靱で持続可能な国土の形成です。

近年全国的に、大雨や地震等による大規模災害が頻発しています。北海道内でも、平成28年8月の連続台風による豪雨、平成30年の北海道胆振東部地震等により、大きな災害が発生しました。北海道開発局は、被災地の早期復興に向けて、引き続き支援を行ってまいります。さらに、道内における今後の大規模災害の発生に備え、培った技術力や知見を活かし、関係機関等との調整や連携を行いながら、防災・減災、国土強靱化に資する社会資本の整備等に重点的に取り組みます。また、災害発生時には、所管施設の迅速な応急復旧等を行うとともに、職員からなるTEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）や災害対策用資機材の派遣等により、被災自治体に対して被災状況調査や応急復旧等の支援などを行ってまいります。

3つ目は建設業等の働き方改革です。

社会インフラの整備・維持管理や災害対応に重要な役割を担っている建設業等については、生産年齢人口が減少する中、その担い手の確保・育成に向けて働き方改革が急務です。「新・担い手3法」もしっかりと踏まえ、関係機関等と連携して、週休2日確保の促進、i-Construction等による生産性向上など、建設業等の働き方改革に一層取り組んでまいります。

4つ目は、「民族共生象徴空間（愛称：ウポポイ）」等を通じたアイヌ文化の復興・発展及び国民理解の促進です。

アイヌ文化の復興等に関するナショナルセンターであるウポポイは、令和2年7月12日に開業しました。北海道開発局は、今後も、多くの方々がウポポイを訪れ、アイヌ文化の素晴らしさを体験し、民族共生の理念に共感していただけるよう、国の他機関、北海道庁、アイヌ民族文化財団などの関係機関等と緊密に連携し、積極的なPRなどに取り組んでまいります。

この他の諸施策も、関係機関等と必要な連携をしながら進めてまいります。

最後に、上記4点の施策等の推進に当たり、新型コロナウイルス感染拡大防止対策と社会経済活動の維持・再生の両立という視点をしっかり踏まえ、早期発注など事業の的確な執行を図ります。また、北海道がその資源や特性を活かし、我が国が直面する課題解決や我が国の発展に貢献できるよう、北海道開発局は引き続き使命を果たしてまいります。末筆になりましたが、皆様方のご健勝とご発展をご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和3年 知事年頭所感

北海道知事
鈴木直道



新年明けましておめでとうございます。

新春を迎えるに当たり、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症が世界的に大きな影響を及ぼした1年でした。我が国、そして本道においても、この感染症により多くの尊い命が失われ、社会経済にも甚大な影響が生じるなど未曾有の危機に直面し、今もなお厳しい状況が続いています。この間、感染拡大の防止と社会経済活動の両立に向けて各般の対策を進める中で、道民や事業者の皆様には、多くのご苦勞やご負担をおかけしながら、ご理解とご協力をいただいていることに改めて感謝を申し上げます。

現下のコロナ禍を乗り越えるためには、私たち道民が一丸となって取り組んでいかななくてはなりません。今後とも、道民の皆様の命と暮らしを守るため、私自らが先頭に立って全力を尽くしてまいりますので、皆様には引き続きのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

厳しい1年ではありましたが、こうした中でも、1月には道内7空港の一括民間委託がスタートするとともに、4月には林業人材の育成・確保を担う北の森づくり専門学院が開校しました。さらに7月には、アイヌ文化振興の拠点となる民族共生象徴空間「ウポポイ」がオープンするなど、本道の更なる発展につながる新しい芽も生まれています。

また、コロナ禍において、都市一極集中への不安や働き方に対する意識の変化、さらには、サプライチェーンの見直しやデジタル化の進展、脱炭素社会への要請など大きな社会変革の兆しが見られます。雄大な自然や冷涼な気候、ゆとりある空間、多彩で豊富な食やエネルギー資源といった本道の価値は、ウィズコロナ・ポストコロナの中で、一層輝きを増してくるものと考えています。

本年は、こうした本道の可能性を最大限に引き出し、未来に向けた飛躍の第一歩を刻む年となるよう、大きな強みである食や観光の魅力を一層磨き上げ、道内、国内はもとより、海外の需要を再び獲得するための取組をはじめ、テレワークやワーケーションといった新しい働き方の導入等による企業・人材の誘致、さらには、カーボンニュートラルや北海道 Society5.0 の推進など、時代の先を見据えた政策を積極的に展開してまいります。

また、本年は、東京オリンピックの札幌開催やアジア初のアドベンチャートラベル・ワールドサミットなど世界規模のイベントが予定されているほか、長年活動が続けてきた縄文遺跡群の世界遺産登録への期待がふくらむ年でもあります。こうした好機を着実に捉え、道民の皆様と共に、新しい北海道づくりを進める年にしたいと考えています。

本年が、皆様にとりまして、明るい希望に満ちた年となりますよう、心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

年頭あいさつ

札幌市長
秋元克広



年頭にあたり謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は、世界中で新型コロナウイルスの感染が拡大し、札幌市では、感染症対策を最優先として対応に当たってまいりました。様々な協力要請にご協力をいただいた市民や事業者の皆様、そして患者の方々への対応にご尽力いただいた医療従事者の皆さま、さらには寄付金など多くのご支援をお寄せいただいた皆さまに、心より感謝を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、長期間にわたる感染症の流行という前例のない事態の中、感染拡大の防止と社会経済活動の両立という、大変難しい対応を求められた一年でありました。札幌市では、時機を逸することなく補正予算を計上し、検査・医療体制の拡充や中小企業の事業継続支援、消費喚起などに取り組んでまいりましたが、引き続き、感染拡大防止対策を図りながら、市民生活と社会経済活動の維持に努めてまいります。

今年は、延期となった「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」が開催され、札幌ではオリンピック競技の男子・女子サッカー、マラソン・競歩が行われます。大会の成功に向け、関係機関と共に万全の態勢を整えてまいります。また、昨年1月に国内候補都市に決定した2030年の冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の招致に向けても、開催概要計画の見直しなど、より具体的な取り組みを進めてまいります。

札幌の顔である都心の再開発においては、建物のリニューアルに際し、国内外から活力・投資を呼び込む都心ブランドの確立に向け、官民連携により、北8西1地区をはじめとする再開発による都市整備を進めるほか、北海道新幹線の札幌延伸を見据え、札幌駅バスターミナルの再整備や、北5西1・西2地区などの再開発をさらに推進し、北海道・札幌の国際競争力をけん引する拠点を形成してまいります。

また、今後の人口減少・超高齢社会を見据え、子育て支援環境のさらなる充実を図るため、今年も保育人材の確保や、子ども医療費助成の対象拡大に取り組んでまいります。さらに、認知症高齢者など判断能力が十分ではない方の権利擁護に向けた中核機関を整備するなど、誰もが安心して暮らしていけるまちづくりを進めてまいります。

新型コロナウイルス感染症の収束に向けた取り組みを最優先課題とし、万全の検査・医療体制を確保するとともに、「新たな日常」の実現に向け、デジタル技術の活用等により札幌の強みを生かした経済・観光振興に取り組むなど、感染症対策と経済活性化の両立を図りながら、市民の皆様と一丸となってこの未曾有の危機を乗り越えてまいりたいと考えております。

本年が皆さまにとりまして、素晴らしい一年となることを心よりお祈り申し上げます。

新型コロナウイルス支援基金寄付の報告

北海道への寄付について（北造協）

第4回理事会にて承認を得て、（一社）北海道造園緑化建設業協会は7月16日に銀行振込にて、新型コロナウイルス感染症に対して最前線で奮闘する医療従事者に向けて100万円を寄付しました。

北海道が募集しているふるさと北海道応援寄付金基金「エールを北の医療へ！」への義援で、医療従事者への支援や医療用機材の整備などに充てられます。

札幌市への寄付について（札幌支部）

第4回札幌支部幹事会（6月19日に書面決議）にて承認を得て、7月8日に銀行振込にて、新型コロナウイルスの影響による様々な課題に対する取組を支援していくために札幌市が創設した「新型コロナウイルス札幌ささえあい基金」へ30万円寄付をしました。

新型コロナウイルスの影響による行事の中止・延期

新型コロナウイルスの感染防止のため下記のとおり、7月以降に予定していた会議・行事を中止または延期としました。

開催日	行事名	対応
7月上旬 2日間	地区懇談・懇親会（札幌地区）	中止
8月上旬	安全パトロール〈街路樹剪定現場〉（札幌地区）	中止
9月上旬	庭園樹剪定技術講習会（札幌地区）	中止
10月上旬	こどものまち「ミニさっぽろ2020」（札幌地区で出展）	中止（実行委員会より連絡あり）
10月下旬	安全パトロール〈公園整備現場〉（札幌地区）	中止
10月16日（金）	令和2年度 造園技術講演会	中止
10月上旬～11月上旬	道内 開発局・振興局への要望活動	中止（郵送による要望）
12月4日（金）	第5回理事会、役員等意見交換会及び懇親会	中止
12月中旬	議員連盟懇談・懇親会（札幌地区）	中止
12月上旬～下旬	普通高校・農業高校への出前講座	中止
1月5日（火）	北海道造園懇話会「新年のつどい」	中止
1月9日（土）～10日（日）	令和2年度「建設産業ふれあい展」	不参加
1月13日（水）	経営者研修会	中止
1月13日（水）	北海道造園緑化関係団体連絡協議会「合同新年交礼会」	中止
年度内	自主企画国内派遣研修	中止
3月上旬	令和2年度「植生技術講演会」	中止
3月上旬	経営者研修会（札幌地区）	再考
4月上旬	現場代理人研修会（札幌地区）	再考

令和2年 後期の事業の主なもの

研修等の事業

令和2年度 現場見学会

日時：8月4日（火） 10：00～16：00

視察現場：①農試公園施設改修工事（札幌市西区八軒5条6丁目、㈱横山造園）
②西岡ぬまた公園再整備工事（札幌市豊平区西岡3条10丁目、㈱四宮造園）
③平岡樹芸センター（昼食会場・施設各自見学）
※①②ともに現地の件場代理人から概要説明後、現場見学、質疑応答

出席者：北海道当別高校 園芸デザイン科 生徒23名（2年生14名・3年生9名）、教員2名



農試公園改修工事の視察



農試公園改修工事の視察



農試公園改修工事の様子



西岡ぬまた公園再整備工事の視察



西岡ぬまた公園再整備工事の視察



西岡ぬまた公園再整備工事の視察



嘉屋会長よりご挨拶



嘉屋会長よりご挨拶





■ 普及啓発等の事業 ■

緑麗会 大通花壇整備

日時：8月25日（火） 10：00～11：30

場所：大通公園7丁目・南東花壇（ボランティア花壇）

参加者：5名

昨年に引き続き、造園業界と業界で活躍する女性のPRのため「造園業界の女性だけで作る花壇」（ボランティア花壇）を出展しています。

夏花壇の花苗が伸び、雑草なども目立ってきていたため、切り戻し作業を行いました。

「満開を過ぎた花を取ったほうが次の花が付く」と教えてもらい、花がらを摘みましたが、まだ咲いている花を切ってしまうのに多少、心が痛みました…10月まで花壇が持つように祈りつつ、作業しました。



切り戻し作業の様子



切り戻し作業の様子



完成花壇の前で記念写真～その1



完成花壇の前で記念写真～その2

緑麗会 大通花壇の撤去作業

日時：10月30日（金） 9：00～11：00

場所：大通公園7丁目・南東花壇（ボランティア花壇）

参加者：7名

冬に向けて、花苗・枕木の撤去作業を行いました。

今回は枕木の撤去・運搬など力仕事が多かったので、(株)横山造園さんの男性職員さんにサポート頂き、大変助かりました。



花苗の撤去



枕木のボルト部分の掘り出し



枕木のボルトの取り外し



枕木の撤去

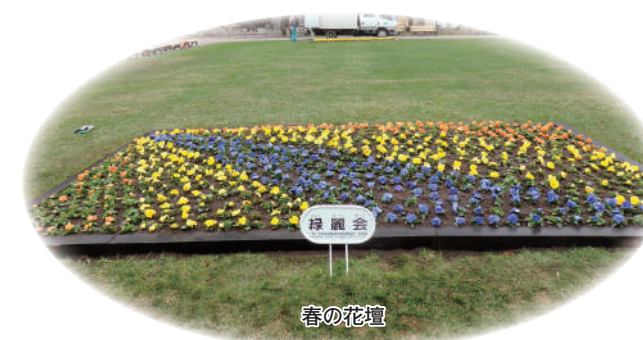


枕木の運搬



参加者の皆さん

《令和2年度 緑麗会の大通花壇》



春の花壇



夏の花壇

🌸🌸🌸 来年も、綺麗な花壇をつくります！！ 皆さま、気軽にご参加くださいね！！
北造協・女性部 緑麗会 🌸🌸🌸



■ 要望活動の推進 ■

■ (一社) 日本造園建設業協会北海道総支部との合同の意見交換 (要望)

意見交換 (要望) 「憩いと安らぎを与える緑化の推進について」

- ・造園関連予算の安定的な確保
- ・道路緑化の推進
- ・公園等の整備・改修工事の推進
- ・道路・河川などの法面植生工事の分離発注
- ・担い手の確保・育成のための支援の拡大

1 北海道建設部

日時 8月25日 (火) 13:30 ~ 13:50



北海道建設部との意見交換



勝谷次長よりご挨拶



北海道建設部との意見交換



北海道建設部との意見交換

2 札幌建設管理部

日時 8月27日 (木) 15:00 ~ 15:20



田中副局長へ要望書の手交



田中副局長へ要望書の手交



札幌建設管理部との意見交換



札幌建設管理部との意見交換

3 郵送による要望を行った道の出先機関

オホーツク総合振興局
釧路総合振興局
後志総合振興局 (小樽建設管理部)
宗谷総合振興局
十勝総合振興局
上川総合振興局
胆振総合振興局
渡島総合振興局
留萌振興局



自民党北海道支部連合会 令和2年度 団体政策懇談会

- 日時 10月9日（金） 10：00～
場所 道議会 4階 自民党中会議室
要望内容
- 1 緑化による道路景観向上対策の推進
 - 2 防雪林の活用・拡大
 - 3 公園等の整備、改修工事の推進
 - 4 法面植生工事の分離発注
 - 5 担い手の確保・育成への支援



自民党北海道支部連合会 令和2年度 各種友好団体との政策懇談会

- 日時 10月24日（土） 14：30～
場所 札幌パークホテル 3階 パークホール
議題
- 1 主催者挨拶 吉川貴盛道連会長
 - 2 各種団体からの要望・提言説明
 - 3 コメント ・道選出国會議員・選挙区支部長
・林幹雄自民党幹事長代理
・二階俊博自民党幹事長

札幌市への緑化推進政策に関する要望（北造協札幌支部）

- 日時 10月30日（金） 11：30～
場所 大通バスセンタービル1号館 6階 みどりの推進部大会議室
要望内容：1 緑化関連予算の確保について
2 入札制度について
3 経営の継続と安定化について
※コロナ禍の影響により、少人数・時間短縮となる。



令和2年 後期の事業の主なもの（関係団体）

日本造園学会 北海道支部大会

- 日時：10月10日（土）～10月18日（日）
場所：WEB開催（北海道支部ホームページ特設サイト）
主催：（公社）日本造園学会北海道支部
共催：（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会北海道支部、（一社）北海道造園緑化建設業協会
※新型コロナウイルス感染症の終息が見通せないことなど諸事情を勘案した結果、参加者の安全と健康を守る観点から、従来の参集型の開催形式からウェブ開催形式とした。

全国都市緑化北海道フェア打合せ会議について（日造協 北海道総支部）

- 日時：9月25日（金） 13：30～
場所：太平洋興発ビル 6階 会議室
出席者：9名（日造協7名・北造協2名）
議題：1 庭園出展コンテストについて
2 全国デザインコンクールについて
3 その他
- 日時：10月28日（水） 15：00～
場所：太平洋興発ビル 6階 会議室
出席者：9名（日造協5名・札幌協2名・北造協2名）
議題：1 恵庭市からの説明について
2 庭園出展コンテストについて
3 他の緑化フェアの庭園出展コンテストについて
4 庭園出展コンテスト協会・団体・企業について
5 全国デザインコンクール
6 その他



第39回全国都市緑化北海道フェア開催概要

1) 名称・愛称
正式名称：第39回全国都市緑化北海道フェア 愛称：ガーデンフェスタ北海道2022

2) 基本理念・基本方針

開催理念
豊富な森林湿原や湖沼等の雄大な自然に恵まれた北海道。 日々の生活の場においても自然は身近な存在であり、花や緑を愛でる心が、暮らしに潤いを与え、安らぎと生き甲斐につながっている。 市民の主体的な花と緑の活動が続けられてきた恵庭市。 その実績は“まちづくり”“ひとづくり”に大きな成果を生み、地域社会の元気の源となっている。 これまで築きあげられてきた“恵庭の花の文化・市民の文化”の魅力が集約され、更なる飛躍の地となる「花の拠点」をメイン会場に、北海道の花と緑の文化を広く全国に発信する全国都市緑化フェアを開催します。
基本方針
① 北海道ならではの花とガーデンの魅力で人々を感動させるフェア ② 希望と活力あふれる“花のまちづくり”を次の世代に継承するフェア ③ “日々の暮らしの潤い”“地域の絆”“豊かな地域社会”につながるフェア ④ 花と緑の取組の歴史と経緯を踏まえ、多様な主体が効果的に連携するフェア

3) 開催テーマ 『花と緑 ～恵みの庭を人がつながる北の大地から。』

4) 主催者等 提唱：国土交通省 主催：北海道、恵庭市、公益財団法人都市緑化機構
共催：国土交通省北海道開発局

5) 開催時期 令和4年6月25日（土）から7月24日（日）まで
（開会式は6月25日（土）とする。）

6) 会場

メイン会場・まちなか会場	花の拠点・中島公園、隣接する河川空間及びまちなか会場 《市内の花のまちづくりの活動地域》（恵庭市）
協賛会場（調整中）	えこりん村、サッポロビール北海道工場、ふるさと公園、ルルマップ自然公園 ふれらんど（恵庭市）、イコロの森（苫小牧市）、いわみざわ公園（岩見沢市）、ゆにガーデン（夕張郡由仁町）、国営滝野すずらん丘陵公園（札幌市南区）、民族共生象徴空間ウポポイ（白老郡白老町）、真駒内公園（札幌市南区）、他各道立公園など
スポット会場	駅や公共空間、イベントを行う会場など

7) 入場方式 メイン会場：無料 / 協賛会場：各事業主体の入場方式による

令和2年建設事業関係功労者等
国土交通大臣表彰 表彰式

日時：11月25日（水） 15：00～
場所：国土交通省 10階 共同大会議室（東京都千代田区霞が関2-1-3）
受賞：国土交通大臣表彰（建設事業関係功労） 都市計画事業関係
受賞者：（一社）北海道造園緑化建設業協会 副会長 神原 喜好氏（北海日植㈱）代表取締役社長）

多年造園工事業に精励するとともに関係団体の役員として地方業界の発展に寄与した個人または団体に表彰を行っています。





大名と日本庭園

(一社)北海道造園緑化建設業協会 専務理事
加 藤 建 一

安土桃山時代の慶長5年9月15日（西暦1600年10月21日）に起こった関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、1603年に征夷大将軍に就任し、江戸幕府を開きました。

以後、明治維新まで約260年間、幕府の本拠地・江戸には各藩の大名や旗本が屋敷を構え、特に、参勤交代で国元と江戸を往復する大名は、遊興や散歩・散策などを楽しむ空間として競い合って庭園を築造し、その結果、造園技術は発達し、江戸時代に日本庭園築造技術が頂点に達したとされております。

また、造園技術に関して各藩間で技術交流が行なわれ、園芸学や博物学などもそれに伴って発達した様です。

江戸は大江戸八百屋町と言われておりましたが、江戸市中の面積のうち実に7割近くが武家屋敷で、さらにその大半が参勤交代で全国から集まる大名とその家臣が住む大名屋敷、残りの1割五分ほどが寺社、町人の住む町屋も1割五分ほどでした。



写真は、旧加賀前田藩の本郷上屋敷内に有った日本庭園（育徳園）の中央部分に造られた心字池。現在では、明治の文豪 夏目漱石の小説「三四郎」にちなんで三四郎池とも呼ばれている。

本稿は、以降の記述を安藤優一郎氏をはじめとする複数の歴史研究家の著書を参考にしながら進めてまいります。

参勤交代で全国から江戸に集まった大名は、江戸在府中、幕府の役職に就いていない者は江戸城に登城して将軍に拝謁したり、城内で行われる儀式などに参加することが主な活動だったそうですが、登城していない日は殆ど藩邸にすることが多く、外出することは少なかったそうです。ただ、藩邸内でも大名には重要な役目があったそうです。

それは、将軍や他国の大名達を接待することだったようです。

接待の舞台は、江戸藩邸であり、邸内に築造された大きな日本庭園でした。

将軍を接待するともなれば、それは幕府に対する重要な公務（かみ）でもあったそうです。

江戸時代の初期、将軍が諸大名に江戸市内の土地を下賜（下げ渡し）し屋敷を構えることを許しました。大名屋敷は、大名とその正室が住む上屋敷、隠居した殿様や世継ぎが住む中屋敷、災害時の避難先や倉庫として活用された下屋敷がありました。このうち、特に、外様大名の上屋敷を毎年のように訪問していたそうです。

将軍の大名屋敷訪問は、「御成」と呼ばれ、訪問先は、前田家、島津家、毛利家、上杉家など有力外様大名の屋敷が多かったのが特徴のようです。

将軍の大名屋敷訪問は、二代将軍・秀忠の頃から始まったようですが、その真の目的は、外様大名が臣下であることを天下に示すためと外様大名の財力を削ぐことだったという説が有力のようです。

二代将軍・秀忠の御成は、全部で29回を数えたそうです。

中でも、慶長15年（1610）に行なわれた米沢藩主 上杉景勝邸への御成については、上杉家が豊臣政権時代、五大老として徳川家と同格の家柄であったので、将軍家としては、「臣下」として目に見える形で天下に知らしめたかったというのが実情のようですが、御成による出費は上杉家に大変な財政負担をもたらしたと言われております。

秀忠の後を継いだ三代将軍・家光も、大名屋敷への御成を継続しました。

寛永6年（1629）4月26日の加賀前田藩の本郷上屋敷の御成では、前年の3月から御成の諸準備に取り掛かり、現在の東京大学キャンパスである本郷上屋敷内に御成御殿を新築しました。この他、3年前から殿舎や庭園（育徳園）も築造するなど大規模土木・造園工事を行い、御成に間に合わせたという記録が残っているようです。

この御成の際、将軍を迎えるために造られた庭園中央部に広がる池（心字池）は、現在、明治の文豪 夏目漱石の小説「三四郎」にちなんで三四郎池とも呼ばれております。

諸大名は、将軍御成の際、幕府から将軍を招くにふさわしい御殿の造成を求められ、紀州藩赤坂屋敷内には、「西園」と呼ばれた巨大な庭園が造られました。この西園の築造には、当時の一流庭師が携わり、水戸家の「後楽園」などの豪華な庭園と肩を並べる存在だったようで、こうした競い合いは、さらなる庭園整備が進む原動力となったようです。

紀州藩赤坂屋敷は、明治維新後、紀州藩から宮内省（当時）に献上され、現在は、赤坂御用地として皇族のお住まいとなっております。

諸大名が将軍の御成に要した費用ですが、元禄15年（1702）4月26日に、五代将軍・綱吉が加賀藩本郷屋敷を訪れた時の記録が残されていますが、総額29万8千両、朝夕で7千人分以上のお膳が用意され、将軍に随行した家臣も数千人に及んでいたとのこと。

元禄時代の小判1両は、現在の価値に換算するといくらになるか試算してみたいと思います。比較方法としては、米の価格を用いて算出したいと思います。

- 江戸時代の米の値段 米1石（約150kg＝1両）として計算。
- 現在の米の値段 5kg 2,000円程度として試算
- $150\text{kg} \div 5\text{kg} = 30 \times 2,000\text{円} \approx 60,000\text{円}$ （1両）
- $298,000\text{両} \times 60,000\text{円} \approx 178\text{億}8\text{千万円}$

何と現在の小規模自治体の年間予算に匹敵する膨大な金額です。

将軍の御成は、幕府の権力が安定期に入る幕府中期以降は少なくなっていったそうです。

このように、諸藩は、江戸屋敷や地元で多くの日本庭園を増築し、各藩が競い合ったことから、その後の造園技術の発達に繋がり、日本が世界に誇る「日本庭園」の築造技術が大いに高められたと思います。

【主な参考文献】

- 安藤優一郎著 「大名屋敷「謎」の生活」
- 白幡洋三郎著 「江戸の大名庭園 饗宴のための装置」
- 白幡洋三郎著 「大名庭園 江戸の饗宴」
- 小寺武久 緒 「尾張藩江戸屋敷の謎 虚構の町をもつ大名庭園」
- フリー百科事典 「ウィキペディア」
- WEB 歴史街道 大名屋敷への「将軍御成」と庭園造成
- 日本銀行金融研究所 「お金の豆知識 江戸時代の1両は今のいくら？」
- 「三四郎池」の写真 著作権者から購入



緑麗会の大通花壇について❀

(一社) 北海道造園緑化建設業協会 緑麗会 副幹事長
春 木 ことえ (株横山造園)

今年も緑麗会の行事の一つ、『女性たちでつくる大通花壇の造成』を無事に終えることができました。いつもなら緑麗会メンバーで、打ち上げのお店どこにする？と盛り上がるのですが、この原稿を書いている11月は、コロナ感染拡大防止のため道の警戒ステージが3に引き上げられたばかりです。みんなで直接顔を合わせてご飯を食べに行けるようになる日はまだ遠いようです。

今回は、緑麗会の主な活動のひとつである、大通り花壇のことを皆さんにご紹介したいと思います。

私たち緑麗会が大通り公園7丁目で花壇の造成を始めてから、今年で3年目になります。他の大通花壇の植樹と同じく、花壇枠を取り付け春と初夏に季節の花の植え・手入れ等を行っています。花壇造成の日は、各社から女性従業員の方が集まってくださいます。(感謝☆☆)

初めて参加される方、毎回来てくれる方、久しぶりに会う方もいて、この場で繋がる人の輪が年々広がりとても嬉しく感じます。このとき来られる方の中には経営者・現場従事者・事務・経理、設計・積算をしている方もいて、職種、年齢、経験年数もばらばらな女性たちが会社の垣根を超え、肩を並べて花植えをします。

普段どんなお仕事しているの？勤めて長いの？という会話から、お互いの仕事内容を話し、「造園あるある」で大笑いし、苦労話を聞いて深く頷くこともあります。



令和1年4月花壇造成



令和1年6月花壇造成

また、新しくオープンしたお店の話、スポーツジムの話、日焼け止めの話など、話題は尽きません。作業をしながら話すので、初めて来た方や人見知りの方も緊張がほぐれるようです。

このように女性同士が交流できる場は、男性が多い建設業の中では貴重だと感じます。同性だから共感し合えることや安心して話せることがあるからです。色々な考え方、生き方の女性と話ができるので視野が広がり良い刺激にもなります。

私には学生時代からの友人で卒業後も造園会社で働いている女性がいますが、同じ造園業で頑張っている彼女の存在はいつも私の励みになっていました。会社は違いますが、造園の楽しさ・辛さを分かち合える友人が身近にいることを心強く感じます。

社内にも長年この仕事を続けてきた女性技術者がいます。バリバリと仕事をこなすのに細やかな気配りもでき、私がずっと憧れて目標にしてきた女性です。女性であってもお客さんや上司の信頼を得て活躍できることを教えてくれました。私が造園の仕事が続けていくうえで、彼女たちの存在はとても大切でした。

私たち緑麗会も大通花壇造成という活動を通し、造園業で働く女性にとってそんな身近な存在になっていけたらと思います。今後は交流や意見交換の場も設け、女性が安心して長く働ける環境づくりを応援していきたいと思います。

そして、2017年11月に緑麗会が設立して3年になりますが、これからの緑麗会についてやりたい事・要望など、今回参加してくださった方にアンケートをとったところ、各社の女性達から『花壇デザインを募集しては？』『講師を招いて講習会を開催してほしい！』といった積極的な意見もいただきました。このようなアクティブな声を、今後の活動に活かしていけたら、と考えています。

女性従業員がいらっしゃる協会員の方々には、緑麗会の活動を知っていただき、ぜひ参加していただけますと嬉しく思います。

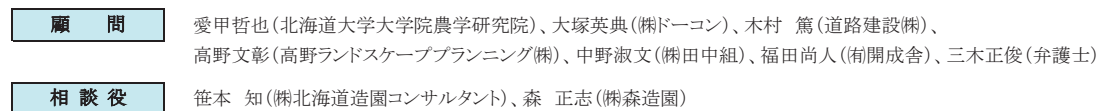
来年度、花壇造成の時期になりましたらぜひ緑麗会の花壇ものぞいてみてください。賑やかな笑い声が聞こえる、大通公園7丁目までどうぞ♪



令和2年4月花壇造成

一般社団法人 北海道造園緑化建設業協会 組織体制図

会 長	嘉屋幸浩
副 会 長	四宮 繁、神原喜好
理 事	会員理事： 嘉屋幸浩(㈱園建)、四宮 繁(㈱四宮造園)、神原喜好(北海日植㈱) 池田智仁(㈱真栄造園)、梶尾 求(㈱梶尾花園)、嘉屋幸浩(㈱藏田喜芳園)、坂尻隆則(㈱緑土興産)、 佐々木 一敏(㈱サンコー緑化)、篠原恒也(㈱篠原園芸)、高木和明(㈱高木園芸)、武田 久(㈱札幌ニット)、 畑山浩二(日本緑化工㈱)、廣澤 隆(㈱道南レミック)、三栖裕司(㈱宝樹造園) 学識理事： 加藤建一(専務理事)、古瀬和由(常務理事)
監 事	会員監事 大川澄雄(アルファ電建㈱)、細田洋介(㈱細田造園)



9月

9日 第1回総務委員会（※ Web会議）

24日 建設産業交通暗線推進北海道本部
第41回建設産業交通安全全道大会

25日 日造協・北造協合同 全国都市緑化
北海道フェア打合せ会議

12月 22日 第2回総務委員会（※ Web 会議）

12月

一般社団法人 北海道造園緑化建設業協会会員

正会員 75 社（令和3年1月1日現在）

会 社 名	代表者名	郵便番号	住 所	T E L
【札幌地区】46社				
(株) 有 末 造 園	金子 光男	〒003-0822	札幌市白石区菊水元町2条5丁目3番1号	(011)871-2101
アルファ電建(株)	大川 澄雄	〒007-0844	札幌市東区北44条東13丁目2番5号KS44	(011)741-8611
(株) 市 川 造 園	市川 俊明	〒007-0874	札幌市東区伏古14条3丁目13番10号	(011)783-5411
(株)岩崎造園土木	西村 卓也	〒007-0894	札幌市東区中沼西4条1丁目3番12号	(011)790-4577
(株) 岩 本 石 庭	岩本 任功	〒005-0003	札幌市南区澄川3条2丁目5番7号 ブルービル3F	(011)833-5128
(株) 園 建	嘉屋 幸浩	〒004-0042	札幌市厚別区大谷地西6丁目2番3号	(011)891-7111
(株)蔵田喜芳園	嘉屋 幸治	〒004-0841	札幌市清田区清田1条1丁目9番12号 IMAビル2F	(011)886-8235
(株)グリーンメイクハラダ	則包 幸男	〒007-0827	札幌市東区東雁来7条2丁目12番12号	(011)783-4500
(株) コ ク サ ク	早坂 有生	〒062-0052	札幌市豊平区月寒東2条16丁目1番89号	(011)851-2111
(株)札幌ニット	武田 久	〒003-0024	札幌市白石区本郷通4丁目南2番9号	(011)864-3477
(株) 札 幌 緑 興	梶野 陽一	〒004-0002	札幌市厚別区厚別東2条3丁目1番5号	(011)898-1051
(株)佐藤萬香園	佐藤 伸一	〒001-0024	札幌市北区北24条西15丁目1番7号	(011)726-2930
(株)サンコー緑化	佐々木一敏	〒003-0828	札幌市白石区菊水元町8条1丁目8番21号	(011)875-1608
(株) 四 宮 造 園	四宮 繁	〒004-0022	札幌市厚別区厚別南3丁目2番25号	(011)892-0881
(株) 集 楽 園	小玉三智子	〒005-0801	札幌市南区川沿1条5丁目1番15号	(011)571-8897
(株) 真 栄 造 園	池田 智仁	〒004-0839	札幌市清田区真栄487番地	(011)881-3475
(株)真栄緑化土木	橋本 悟	〒004-0831	札幌市清田区真栄1条1丁目15番11号	(011)881-8951
(株)スペース・デザイン工業	高橋 宏明	〒006-0034	札幌市手稲区稲穂4条5丁目6番12号	(011)684-1657
(株)高島造園工業	高島 緑	〒004-0812	札幌市清田区美しが丘2条4丁目17番20号	(011)881-2975
(株) 高 重 造 園	佐和田 匠	〒064-0806	札幌市中央区南6条西26丁目4番1号	(011)551-1765
(有)タモリ建商	田森 征詔	〒062-0033	札幌市豊平区西岡3条10丁目1番20号	(011)855-0866
道 央 緑 化 (株)	星野富士男	〒002-0854	札幌市北区屯田4条8丁目6番34号	(011)773-0686
(株)道建緑化工業	角田 隆	〒064-0925	札幌市中央区南25条西11丁目1番12号	(011)531-0166
(株) 南 香 園	廣部 修平	〒060-0011	札幌市中央区北11条西15丁目1番52号	(011)747-9266
(株)ニットメンテナンス	川村 光徳	〒003-0023	札幌市白石区南郷通4丁目北4番20号	(011)863-6870
日本体育施設(株)北海道営業所	久恵 信一	〒063-0006	札幌市西区山の手6条7丁目2番17号	(011)614-1321
(株) 日 本 庭 園	伊藤 哲弥	〒006-0819	札幌市手稲区前田9条11丁目5番30号	(011)684-2458
日本緑化工(株)	畑山 浩二	〒002-8028	札幌市北区篠路8条5丁目2番1号	(011)775-3200
(株) 平 野 造 園	平野 一美	〒003-0027	札幌市白石区本通7丁目北1番23号	(011)863-2384
(株) 細 田 造 園	細田 洋介	〒005-0841	札幌市南区石山1条7丁目1番14号	(011)591-3041
北海道秋山造園(株)	丸山 敝一	〒007-0837	札幌市東区北37条東16丁目3番1号	(011)785-6115
(株)北海道造園コンサルタント	笹本 知	〒060-0063	札幌市中央区南3条西12丁目320番地20 札幌森ビル3	(011)251-4887
北海道三祐(株)	笹浪 圭吾	〒002-0856	札幌市北区屯田6条8丁目9番12号	(011)773-5121
北海日植(株)	神原 喜好	〒001-0023	札幌市北区北23条西7丁目1番33号北海NISSHOKUビル	(011)707-6201
北方緑化工業(株)	鎌田 浩	〒062-0934	札幌市豊平区平岸4条3丁目6番5号	(011)811-3897
(株) 真 鍋 造 園	真鍋 昌市	〒062-0020	札幌市豊平区月寒中央通6丁目2番16号	(011)851-8028
マルミプラス(株)	刈田 晋弥	〒002-8023	札幌市北区篠路3条7丁目5番14号	(011)771-2438
(株) 森 造 園	森 正光	〒062-0052	札幌市豊平区月寒東2条20丁目8番5号	(011)851-8534
(株)森造園土木	森 正男	〒061-2284	札幌市南区藤野4条8丁目267番地	(011)591-8435
(株)山吉高島造園	高島 利夫	〒007-0867	札幌市東区伏古7条2丁目3番16号	(011)781-2235

会 社 名	代表者名	郵便番号	住 所	T E L
(株) 湯 川 造 園	湯川 淳	〒004-0842	札幌市清田区清田2条2丁目14番37号	(011)884-7071
雪 印 種 苗 (株)	高山 光男	〒004-8531	札幌市厚別区上野幌1条5丁目1番8号	(011)891-5691
横浜植木(株)北海道支店	喜多 伸行	〒003-0029	札幌市白石区平和通14丁目北2番16号	(011)862-3561
(株) 横 山 造 園	小華和 坦	〒063-0826	札幌市西区笥寒6条5丁目5番3号	(011)661-6283
緑化デザイン(株)	小林 勝美	〒065-0043	札幌市東区苗穂町4丁目1番8号	(011)741-5076
ロンタイ(株)札幌支店	小林 健嗣	〒062-0932	札幌市豊平区平岸2条4丁目4番2号	(011)823-5780
【空知地区】（3社）				
(株) 藤 樹 園	斉藤 靖	〒073-0405	歌志内市字神威140番地	(0125)42-2239
(株)北海道アトリウム	工藤 克彦	〒079-0313	空知郡奈井江町字奈井江町171番地35	(0125)65-5707
馬 淵 建 設 (株)	久保 隆	〒068-0833	岩見沢市志文町966番地15	(0126)25-6400
【後志地区】（2社）				
(株)阿部新香園	阿部 哲也	〒048-2671	小樽市オタモイ3丁目1番1号	(0134)26-2537
(株) 宝 樹 造 園	三栖 裕司	〒048-2672	小樽市塩谷4丁目13番地	(0134)26-0488
【日胆地区】（5社）				
(株) 金 谷 造 園	金谷 泰央	〒059-1741	勇払郡厚真町字上厚真219番地4	(0145)28-2537
景 観 緑 化 (株)	宮崎 洋二	〒053-0054	苫小牧市明野新町3丁目7番2号	(0144)55-4165
(株)道南レミック	廣澤 隆	〒053-0052	苫小牧市新開町3丁目4番3号	(0144)82-8661
長 岡 造 園 (株)	長岡 直人	〒053-0055	苫小牧市新明町5丁目29番9号	(0144)55-2736
緑 豊 建 設 (株)	矢部 繁	〒053-0021	苫小牧市若草町1丁目2番7号	(0144)32-7765
【道北地区】（3社）				
(株)石田兼松八興建設	石田 一彦	〒070-0810	旭川市本町2丁目437番地119	(0166)51-3211
北海道グリーン工業(株)	福地 弘明	〒079-8416	旭川市永山6条1丁目2番19号	(0166)22-6850
(株) 緑 土 興 産	坂尻 隆則	〒071-8121	旭川市末広東1条7丁目7番9号	(0166)57-7620
【オホーツク地区】（5社）				
(株) 遠 藤	遠藤登志子	〒091-0004	北見市留辺蘂町上町134番地	(0157)42-3508
(株) 高 木 園 芸	高木 和明	〒099-1586	北見市広郷1136番地3	(0157)39-3224
(株) タ ナ カ	田中 勝則	〒093-0042	網走市潮見2丁目15番1号	(0152)44-4353
(株) 緑 翔	井上 宏樹	〒099-1587	北見市豊地22番11号（工業団地）	(0157)66-1030
(株) 緑 進	田中 伸宏	〒090-0058	北見市高栄西町9丁目1番18号	(0157)61-0195
【十勝地区】（5社）				
(株) 阿 部 造 園	阿部 英輝	〒080-0141	河東郡音更町宝来北1条2丁目2番地	(0155)31-2350
(株) イ ノ タ ニ	猪谷 直樹	〒080-0015	帯広市西5条南30丁目13番地	(0155)24-3073
(株) 梶 尾 花 園	梶尾 求	〒080-0033	帯広市西3条北1丁目13番地	(0155)24-0505
(株) ケ イ セ イ	佐野 公彦	〒080-0805	帯広市東5条南7丁目1番地3	(0155)22-7115
(株)真鍋庭園緑化	真鍋憲太郎	〒080-0832	帯広市稲田町東2線6番地	(0155)48-2120



会 社 名	代表者名	郵便番号	住 所	T E L
【釧路地区】（6社）				
㈱アヤメ緑化工業	菖蒲 哲也	〒086-1127	標津郡中標津町西7条北4丁目1番地5	(0153)72-8535
大友造園建設㈱	大友 淳	〒084-0917	釧路市大楽毛4丁目3番4号	(0154)57-8226
㈱篠原園芸	篠原 恒也	〒085-0038	釧路市花園町5番4号	(0154)22-3230
肥土原産業㈱	佐藤 孝行	〒084-0906	釧路市鳥取大通3丁目2番10号	(0154)51-7630
(有)摩周植物園	古瀬 廣幾	〒088-3202	川上郡弟子屈町鈴蘭2丁目4番3号	(0154)82-2406
㈱ヨシダ造園緑化	吉田 英司	〒085-0814	釧路市緑ヶ岡2丁目36番15号	(0154)42-5270
【特別会員】（6社）				
㈱アイティエス札幌事業所	河原 健光	〒064-0925	札幌市中央区南25条西12丁目3番23号	(011)520-6800
カネコ種苗㈱札幌支店	永井 淳史	〒003-0030	札幌市白石区流通センター1丁目2番15号	(011)861-5659
㈱共成レンテム営業本部	堀 一敏	〒064-0809	札幌市中央区南9条西11丁目 きだパレス2階	(011)883-8283
正 栄 機 工 ㈱	及川 泉	〒065-0024	札幌市東区北24条東16丁目1番6号	(011)785-8111
㈱ 高 倉	遠藤 友二	〒064-0809	札幌市中央区南9条西8丁目2番33号	(011)511-3026
ハスクバーナ・ゼノア㈱北海道支店	木寺 隆	〒007-0827	札幌市東区東雁来7条2丁目12番5号	(011)594-8878
【賛助会員】（7社（名））				
㈱建築資料研究社北海道支店	小路口 隆	〒060-0032	札幌市中央区北2条東4丁目 札幌ファクトリー三条館4階	(011)251-6010
下 村 太 郎		〒059-1275	苫小牧市錦岡813番地	(0144)68-6320
㈱トータルネットワーク	小島 恭平	〒060-0033	札幌市中央区北3条東3丁目1番30号 KNビル3階	(011)222-2155
(有)ナベックス	渡辺 良彦	〒069-0861	江別市大麻北町518番地78	(011)386-4409
㈱日産フィナンシャルサービス	内村 直友	〒060-0042	札幌市中央区大通西6丁目10番地 大通公園ビル4階	(011)796-5523
北海道日産自動車㈱	原田彦工門	〒065-0019	札幌市東区北19条東1丁目2番20号	(011)351-4123
山 下 裕 司		〒007-0895	札幌市東区中沼西5条1丁目5番15号	(011)555-9744

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、被害に遭われた方々にはお見舞い申し上げますとともに、医療関係者の皆様には心より感謝申し上げます。

2020年は何を語るにも新型コロナウイルスは切り離せない1年だったのではないのでしょうか。北造協の活動においても、従来の方法では3密を回避できないような活動は中止となり、会議などもオンライン化が進みました。これらは突然の事態への緊急対応として行った側面もあり、メリット・デメリットは当然存在するものだと思います。では、いつか新型コロナウイルスが消滅し、以前のような社会に戻るのかということ、なかなか100%元に戻るとは言えないのではないのでしょうか。とすると、with コロナ時代、言い換えればウィルスなど人間がすぐに対応できないようなものも常に存在すると意識しなければならない時代で、こうした社会様式の変化を受け入れ、より良く今までとは違った形の発展をさせていくことも考えていかなければならないのだろうと思います。

人間がどうすることができないものの1つに自然災害があります。この自然災害の原因の1つといわれているのが地球温暖化問題です。日本は、1992年に開催された地球サミット以降、1997年に温室効果ガスの国際的な削減目標が初めて合意された京都議定書を開催国として取りまとめるなど、地球温暖化問題が取り上げられるようになってから国際的に先頭を走っていたと思います。しかし、それ以降、地球温暖化問題に消極的な国に贈られる化石賞を何度か受賞してしまいます。つまり、国際的には日本は地球温暖化問題に積極的に取り組んでいないとみられていました。そのような状況の中で今年、菅総理大臣が「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」と政府の方針を発表されました。太陽光などの自然エネルギーの利用や、水素のエネルギー利用など、実際に温室効果ガスをほとんど発生させない技術の開発ももちろん含まれますが、この「全体としてゼロ」とは発生させた分は吸収させるという考えも含まれます。温室効果ガスの代表的なものである二酸化炭素、それを吸収するものといえば植物です。吸収量を増やすために植えることはもちろんですが、（これをご覧の皆様には釈迦に説法ですが・・・）適切な管理がされず枯れが進むと樹木も二酸化炭素を排出してしまいます。私たち造園業にたずさわるものは、未来の地球環境、未来の地球に住む人たちのためにも誇りと責任をもって仕事をし続けなければならない思いを新たにしました。

最後になりますが、総務委員会では広報誌「みどり」をはじめとした情報発信を積極的に行ってまいりたいところであります。関係者の皆様には広報誌への寄稿やアンケートへのご回答をお願いすることもあるかと存じますが、ご協力いただけますようお願い致します。

総務委員長 廣部 修平

北造協サポーター「ほくぞう」

北造協サポーター「ほくぞう」は、北海道に生息するエゾリス。まちの緑を守るため、造園建設業者の若手社員を口うるさく指導する。

厳寒期でも冬眠しない働き者。

木の実をせっせと植えて緑を増やすのが大好き。

するどいしっぽをノコの代わりにして剪定作業もこなし、樹木を育てている。



■表紙写真

第2回みどりの景観フォトコンテスト入賞作品
『秋の便りを届けに』 撮影者：檀原志織氏



総務委員会

委員長 廣部 修平

副委員長 池田 智仁・大川 澄雄
大友 淳・鎌田 浩
久恵 信一・武田 久
田森 宣行・中峰 勝美
廣澤 隆・福地 弘明
真鍋 昌市・三栖 裕司
森 正光



シンボルマークのコンセプト

正三角形のグリーンのフォルムは北海道の代表樹エゾマツが天空に伸びてゆくさまを、白い3本のウェーブは大地を流れる川を示す。中央下のブルーの楕円は樹の幹を、それに続く楕円群は庭石を表し、協会の堅い結束と広がる交流を意図している。

一般社団法人 北海道造園緑化建設業協会

札幌市中央区南1条東1丁目 太平洋興発ビル
TEL 011-221-4451/FAX 011-232-5611